

## 近世秋田における城下町設計論理に関する研究

—久保田・横手・大館を対象として—

A Study on the Design Principles of the Castle Town in Akita

- A Case Study of Kubota, Yokote and Odate -

○高橋一希<sup>1</sup>, 阿部貴弘<sup>2</sup>

\*Kazuki Takahashi<sup>1</sup>, Takahiro Abe<sup>2</sup>

Abstract: Castle town had unique urban structure. Additionally, it is worked on city planning focus on historic preservation in recently. Therefore this study aims to reveal the design principles of the castle town in Kubota, Yokote and Odate.

### 1. はじめに

近世城下町は水路網と街路網が入り組んだ日本独自の都市構造である。秋田県内では2017年に大館、2018年には横手が歴史的風致維持向上計画に認定された。

こうした歴史まちづくりにおいて、その土地の履歴を知ることが重要となる。しかし、これまでの城下町の既存研究では、その設計論理については十分に明らかとなっているとは言い難い。

そこで本研究では秋田県内の各城下町の設計論理を明らかにし、比較分析を行い各城下町の特徴・共通点を導き出すことを目的とする。

### 2. 研究対象

本研究では秋田県内の一國一城令発令後も破却されずに残存した城下町久保田、城下町横手、城下町大館を対象とする (Figure 1)。



Figure 1. Map of Potision Kubota, Yokote and Odate

### 3. 研究方法

設計論理を解明するためにまず、文献調査及び絵図や函面 (Table 1) のトレースなど史料の整理を行う。

次に、阿部らによる近世城下町町人地の設計論理を解明する方法論<sup>[1]</sup>を基に Table 2 の視点で分析を行う。

1 : 日大理工・学部・まち 2 : 日大理工・教員・まち

Table 1. List of Maps

資料名	年代	縮尺	所蔵・出典
外町屋敷間敷絵図	1663年	不明	秋田県公文書館
出羽国秋田群久保田城画図	1647年	不明	秋田県公文書館
秋田市全図	1914年	約11500分の1	不明
都市基本計画図(秋田市)	2014年	2500分の1	秋田市
横手城下絵図	1670年	不明	秋田県公文書館
横手絵図	1728年	不明	秋田県公文書館
横手市街図	不明	不明	秋田県公文書館
都市基本計画図(横手市)	2007年	2500分の1	横手市
大館絵図	1728年	不明	秋田県公文書館
大館御城下絵図	1759年	不明	秋田県公文書館
大館群大館市市街絵図	1800年	不明	秋田県公文書館
都市計画図(大館市)	1988年修正	2500分の1	大館市

Table 2. Research Method

No.	分析視点	分析方法
(1)	開発過程	町人地の開発がどのようなプロセスで行われたか。
(2)	設計基準	モジュール 絵図・測量図を用いて宅地及び街区などを計測し、モジュールを明らかにする。
	町割の基軸	宅地奥行及び街区形態に関して、基本とされるモジュールからの「ずれ」に着目して、地形などの設計に影響を与える要素について分析し、町割の基軸・町割の基点を明らかにする。
	町割の基点	
(3)	設計単位	一定のまとまりをもった区域の単位を読み解く。

### 4. 調査結果及び分析結果

#### (1) 開発過程

久保田の外町の開発過程について Table 3 に示す。

Table 3. Chronology of Urban Development in Kubota

西暦(年)	町名	出来事
1603	久保田城築城が始まる。	
	大町	土崎渡からの移転。
1607	久保田城下の町割を始める。	
	通町	町割がされる。
1612	上春町	上春町の名が確認される。
1613	米町4丁	米町4丁が現在地に移される。
1616	馬口労町	馬口労町の名が確認される。
1617	大工町	大工町の名が確認される。
1618	豊嶋町	豊嶋町の名が確認される。
	上春町	上春町を川端から茶町筋へ移す。
1619	鉄砲町	鉄砲町の名が確認される。
	十人衆町	十人衆町の名が確認される。
	四十間堀町	四十間堀町、丁としては成立。しかし、屋敷は立ち並んでいなかった。
1620	下亀ノ丁	外町の下亀ノ丁町の名が確認される。
	鍛冶町	鍛冶町の名が確認される。
1624	川端町三丁目	川端町三丁目の名が確認される。
1625	新城町	新城町の名が確認される。
	下春町	下春町の名が確認される。
1629	酒田町	酒田町の名が確認される。
	川端鍛冶町	川端鍛冶町の普請。
	川端町二丁目	川端町二丁目の名が確認される。
1631	通町・大町	通町、大町三町の2階屋作りが命じられる。
	鍛冶町から馬口労町へ通り抜けの割直しを命じる。	
	柳町	柳町の名が確認される。
	川端四丁目	川端四丁目の名が確認される。
	八日町	八日町の名が確認される。

茶町筋が羽州街道の通る道であった。しかし、鍛冶町から馬口労町の通り抜きの割直しが行われたことで大町筋も羽州街道の道となった。

(2) 設計基準

久保田外町の分析結果を Table 4 に示す。また下水路網、街区などをトレースしたものが Figure 2 である。

Table 4. Analysis on Design Principles of Kubota

分析視点		分析内容	
モジュール	街区	街区長辺 北北東—南南西方向の街区辺に着目すると、東南東—西北西方向に並ぶ街区で、それぞれ多少のずれはあるが概ね統一されている。 東南東—西北西方向の街区辺に着目すると、その街区辺に統一性は見られない。	
		街区短辺 東南東—西北西方向の街区辺に着目すると、大町を有する街区は概ね45間で統一され、その他の街区では約40間である。	
	間口	基本的には北北東—南南東方向に通された街路に間口を向けた両側町となっている。	
		一方、東南東—西北西方向に通された街道に間口を向けた宅地も一部存在する(通町、中通町、大工町、五丁目横町、下肴町、馬口労町)。	
		奥行	川端筋沿いの宅地奥行は、川端町一丁目から五丁目までは奥行20間で統一されている。一方、船大工町で30間以上に膨れ上がり、南南西に向かうにつれて奥行が狭まる。
			大町筋沿いの宅地奥行は、大町一丁目から五丁目までは奥行25間で統一されている。一方、大町六丁目、鍛冶町では約20間が配置されている。また、酒田町の東南東の街区では北北東端が13間、南南西端が9間と徐々に奥行が狭まっている。西北西の街区では13間から15間で配置されている。
町割の基軸	全体の微地形の傾向 大町一丁目周辺の標高が高く、南南西方向に向けて標高が低くなっている(国土地理院地図より確認)。		
	街路	北北東—南南西方向 川端筋、大町筋、茶町筋、亀ノ丁筋の表通りが通されている。北北東から南南西に向けて標高が低くなるように通されている。	
		東北東—西北西方向 橋の袂を起点として通されている街路は一直線に通されている。一方、橋の袂を基点としていない街路は基本的にかぎ型である。また、標高は川端筋から高くなり茶町筋に交わるあたりから低くなり、そのまま寺院に到達する。	
町割の基点	橋の袂 橋の袂が街路の起点となっている。		

5. 考察

(1) 開発過程

羽州街道は茶町筋を通っていた。これは大町筋が馬口労町まで通り抜けていなかったことが原因であると考えられ、通り抜きのための割直しが行われている。割直しをしてまで大町筋に羽州街道を通らせた理由と

して、茶町筋は下肴町から南南西の土地が低く、大町筋が微高地であったことが考えられる。

(2) 設計基準

久保田の外町では街区の基本モジュールは定められていなかった。しかし、街区長辺を確認すると、橋の袂を基軸に通された一直線の街路を基準に長方形街区がつけられていることが確認できた。一方で、各町の形は街区の形には縛られていない。まず、水路を宅地の背割線としている宅地が多くあり、間口方向の異なる宅地が1つの街区内に存在する。そのため外町全体に張り巡らされた水路網が各町の形態に関係していると考えられる。

街路が通されている地点は起点から終点まで標高が大きく上下せず、基本的には一方向に向かって傾斜ができています。または、台地のようになっている。これは街路の雨水排水のためだと考えられる。

(3) 設計単位

宅地のまとまりは、水路が宅地の背割線である為、水路と街路に挟まれた土地のまとまりであるといえる。

6. まとめ

城下町の設計論理について「開発過程」、「設計基準」、「設計単位」の視点から明らかにした。

今回は、久保田の分析を主に行ったが、今後は横手・大館についても分析を深めていく。そして、各城下町の比較分析を行い、設計論理の共通点及び相違点を見出し、それぞれの設計論理の特質を明らかにしていく。

7. 参考文献

- [1] 阿部貴弘, 篠原修: 「近世城下町大阪, 江戸の町人地における城下町設計の論理」, 土木学会論文集 D2 (土木史), Vol.68, No.1, pp.69-81, 2012年
- [2] 平凡社: 「日本歴史地名大系 5 秋田県の地名」, 平凡社, 1980年6月
- [3] 渡部景一: 「梅津政景日記」読本, 無明舎, 1992年5月20日
- [4] 秋田市: 「秋田市史 第3巻 近世 通史編」, 秋田市, 2003年6月
- [5] 渡部景一: 「図説久保田の城下町」, 無明舎, 2017年5月4日



Figure 2. Schema of Downtown in the Castle Town in Kubota